

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所Uo-Sao'			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 4日 ～ 2025年 3月 24日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7家庭	(回答者数)	6家庭
○従業者評価実施期間	2025年 2月 4日 ～ 2025年 3月 24日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	3名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達に寄り添った共感的な支援ができている。 保護者の方とコミュニケーションが取れており、お子様のことについて相談できる機会を設けている。	子ども達の状態をしっかり観察し、支援内容に反映させている。児童発達支援管理責任者に支援内容を確認しながら、丁寧な支援を心がけている。	子ども達にとっての最善とは何かを考えながら、児童発達支援管理責任者の指導のもと、よりよい支援が出来るよう、職員間で話し合いを進めていく。
2	職員会議など職員間で話し合う機会をしっかりと作ることで職員間のコミュニケーションを図りやすくし、同じ方向性をもって療育ができるようにしている。	社内研修をしっかりと行い、職員会議の中で子ども達へのかわり方などより良い療育ができるように職員間で話し合い、共通理解の元で子ども達への関わりを行っている。	今後も職員間でコミュニケーションをしっかりと図り、前職委員で支援が行えるようにしていきたい。
3	子ども、保護者ともに安心感をもって通所することができている。また、通所することを楽しみに感じている。	リズム療育を取り入れ、楽しみながら成長できるような活動に取り組んでいる。 送迎、連絡アプリ等でその日の様子をお伝えし、日ごろから現場職員とご家族もコミュニケーションを図るようにしている。	子ども達の様子を常にアセスメントし、活動をアップデートするための振り返りを行っていく。 今後はホームページを開設し、さらに子どもたちの様子が保護者の皆さまに伝わりやすいようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が作れていない。	年度初めや利用開始時に並行利用している子どもが所属している施設へ電話や送迎の際にご挨拶はしているが、そこから連携につながるケースは少ない。	保護者の方のご要望を聞きつつ、必要に応じて連携を取れるように動いていく。
2	ご家族に対してのペアレントトレーニングやご家族へ向けての研修会が出来ていない。 保護者会などご家族同士で交流できる場を作ることができていない。	事業所内でペアレントトレーニングを実施しようとすると職員の技術と人員増量が必要となる。現時点では子ども達の療育をしっかりと行うことにマンパワーがすべて取られている。	ペアレントトレーニングができる人材を確保したい。
3	第三者委員会など外部の機関を運営に取り入れることができていない。	外部機関とつながれるようにする体制作りの時間の確保が難しい。	市町村や公的団体へ方法の助言を聞くなど取り組みをしたい。